

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ

○趣旨

中央防災会議では、東北地方太平洋沖地震の教訓を踏まえ、これまで南海トラフ地震、首都直下地震について最大クラスの地震・津波を想定した防災対策の検討を進めてきた。

今般、日本海溝・千島海溝で想定すべき最大クラスの地震・津波の検討が進んだことから、これに対する被害想定、防災対策の検討を行うために、防災対策実行会議の下にワーキンググループを設置。

○論点

- ・日本海溝・千島海溝沿いで想定される最大クラスの地震・津波による人的・物的・経済的被害の想定
- ・これら想定される被害を軽減するための防災対策
- ・特に、寒冷地、積雪地特有の被害の想定、防災対策

○検討スケジュール

- ・2020年4月 ワーキンググループを設置
- ・2020年度中を目処にとりまとめ

○メンバー

委員	所属
◎河田 恵昭	関西大学理事・特別任命教授・社会安全研究センター長
○今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長・教授
井出 多加子	成蹊大学経済学部教授
蝦名 大也	北海道釧路市長
片田 敏孝	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任教授
小林 眞	青森県八戸市長
佐竹 健治	東京大学地震研究所教授
鈴木 直道	北海道知事
瀬尾 英生	北海道経済連合会専務理事
谷岡 勇市郎	北海道大学大学院理学研究院付属地震火山研究観測センター教授
田村 圭子	新潟大学危機管理本部危機管理室教授
中埜 良昭	東京大学生産技術研究所教授
根本 昌宏	日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター長・教授
野田 武則	岩手県釜石市長
平田 直	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 参与・首都圏レジリエンス研究センター長（元 東京大学地震研究所教授）
福和 伸夫	名古屋大学減災連携研究センター長・教授
松本 浩司	日本放送協会解説主幹
丸谷 浩明	東北大学災害科学国際研究所副研究所長・教授